

長崎大学の感染症研究施設の今をお伝えする

BSL-4 Report

Vol.4
2021.4.



ポストコロナを睨んで

令和3年7月に長崎大学坂本キャンパスに建設中のBSL-4施設が竣工します。最高レベルの安全性を備えた、アカデミアの研究者が利用できる日本初の感染症研究施設（BSL-4実験施設）です。この施設の完成により、わが国はあらゆる病原体に対して、診断、予防、治療の研究を実施することが可能になります。本学はもとより、他の研究機関の優れた研究者達が本施設を活用して安全で効果的な治療薬やワクチン、迅速診断法等の研究を実施し、その成果はこの坂本の地から、世界に向けて発信されることでしょう。

さて、新型コロナウイルス感染症のパンデミック宣言から、早くも1年が経過しました。すでに世界で感染者数は1億4000万人を超え、死者数は300万人を超えました。この事態を悪化させないために、我々には日常生活での行動変容が求められていますが、人々が元の生活に戻るためには治療薬とワクチン、より迅速な診断法の開発が不可欠です。幸い、今回初めて実用化されたmRNAワクチン（メッセンジャーRNAワクチン）という新規ワクチンやレムデシビルなどの抗ウイルス新薬、診断薬が次々に利用可能となり、少し先が見えてきました。科学技術を利用してパンデミックを一日も早く収束させることが望まれます。

実は今回、新型コロナウイルス対策に使われたレムデシビル、mRNAワクチンなどの新規ワクチン技術は、外国でエボラウイルス感染症などに対抗するために開発が進められてきた最先端研究の成果を転用したものです。今回竣工するBSL-4施設により、これまで日本では実施できなかったレベルの研究が可能になれば、次の新しい感染症に対してもより早く対応できるようになることが期待されます。

日頃より長崎大学の活動にご支援、ご意見を頂いております地域住民の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、今後も引き続き、率直なお声をお聞かせ願えればと思います。

2021年4月

長崎大学熱帯医学研究所 所長
世界保健機関（WHO）研究協力センター長
森田公一



BSLとは、バイオセーフティーレベル(Biosafety Level)の略で、ウイルスや細菌などの病原体を生物学的な危険度で分類した指標であり、同時にそれらを取り扱う実験施設の分類です。病原体の分類は、その病原性(病気の重篤度、感染性等)、ワクチンや治療法の有無、公衆衛生上の重要性を考慮して、危険度の高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。それに合わせて、実験施設も、病原体封じ込めレベルや管理レベルの高い方からBSL-4~BSL-1に分類されています。感染すると、有効な治療法がなく、また予防法もない病原体(エボラウイルスやマールブルグウイルス等)にも対応できる、安全性を十分に備えた施設がBSL-4施設です。

お問合せ先 ご意見・お問い合わせはこちらまでお気軽にご連絡ください。

長崎大学感染症共同研究拠点 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

フリーダイヤル 0120-095-819 より詳しくお知りになりたい場合は、長崎大学感染症共同研究拠点ホームページをご覧ください。

ファックス 095-819-2960 **ホームページアドレス** <https://www.ccpid.nagasaki-u.ac.jp>

